

『#がんばっていきまっしょい』（1998 年：磯村一路監督）を NHK BS で視聴した。25 年前、札幌の蠍座（いわゆる名画座）で鑑賞し、その後、何年間も大学の部屋にこの映画の大きなポスターを貼っていたものだ。なんでそんなに気に入ってしまったのかも忘れてしまったので、再度視聴することにした。朝日ベストテン映画祭第 1 位。主演の田中麗奈（一重瞼が印象的）は新人賞。

敷村良子氏の小説（坊ちゃん文学賞受賞作）の映画化。松山市の高校を舞台に、ボート部の活動に打ち込む 5 人の女子高校生たちの姿を描いた物語。私の出身の沼津東高校は全国ボート大会常連校であった。タイトルの「がんばっていきまっしょい」は、敷村氏の母校である愛媛県立松山東高校で 1966 年から使われている「気合入れ」の掛け声だそうだ。映画の導入部分でも生徒会長が壇上から入学式で気合を入れている。全員で「しゅい」と返す。舞台は 1970 年代で、学校名は「伊予東高校」という架空のものが使われている。

主役の篠村悦子は、進学校に入学したが、やりたいことが見つからず、学校でも家でもなんとなく落ちこぼれているように感じている。しかし、一旦思い込んだら何が何でも直進する情熱家であり、ボートに遣り甲斐を見つける。しかし、貧血で運動能力を削がれ、ギックリ腰でボートを漕げなくなる。

悦子の幼馴染で男子ボート部員との淡い恋心も描かれる。1 年目は大会に出てもダントツのビリ。2 年目に、訳ありで故郷に戻り、嫌々ながらボート部のコーチとなる元日本代表のコックスが登場し、メキメキと力をつけてゆく。琵琶湖で行われる全国大会を目指して、2 年目は必死の努力をするが、さて、結果は・・・。

青春時代に流す汗と涙。部活後に皆で食べるお好み焼きとそこでの雑談。合宿での花火に、亘に布団を寄せての深夜に及ぶ話し合い。ありきたりだが、自分自身の思い出と重なって、幾つになっても涙が出てしまう。

高校女子ボート部の全国大会には、主に全国高等学校選抜ローイング大会と全国高校総体（インターハイ）がある。

- 全国高等学校選抜ローイング大会は「ボートの甲子園」とも呼ばれ、春に開催される全国大会である。各ブロック予選を勝ち抜いた 24 クルーが日本一を争う。
- 全国高校総体（インターハイ）は夏に開催される大会で、2025 年は広島県の芦田川で行われる予定。

これらの大会では、シングルスカルやクオドルプルなどの種目があり、全国の高校生が技術とチームワークを競い合う。